



ことすが
谷川士清の足跡②

ほごづか
反古塚

バス…三重交通バス「津
高校前」下車徒歩5分
車…伊勢自動車道津IC
から車で10分

谷川士清旧宅から八町通りを東に進み、100mほど先の路地を北に入った先に士清を祭る谷川神社がある。鳥居をくぐって拝殿左側に入ると、高さ1.5mほどの石碑があり、これが市指定史跡の「反古塚」である。士清が晩年自ら築き、建立の日から3日続けて玉虫が姿を現したことから「玉虫塚」の名もある。

一般に「反古(反故)」とは不要になって捨てる紙のことを指すが、この反古塚は、士清が国学研究の思考過程での下書きやメモが後世の人々の目に触れて誤解されないよう、その紙を埋めたことからその名がある。これは、神道家としての伝統にのっとり、自身の講義原稿や秘伝の書き留めなどは土に埋めるか焼却するしきたりを忠実に実行した証しであり、石碑の裏に万葉仮名で次の歌を残している。

「何故爾碎伎志身曾登人間婆 其礼登答牟日本玉之譬」(何故に碎きし身ぞと人間はば それと答えむやまとたましひ)

後世の飛躍した解釈により歌の意味が曲解されたこともあるが、この「日本玉霊」は「神道＝国学」を意味し、正しくは「なぜそんなに(勉学に)努力するのですかと問われれば、私は日本玉霊(＝神道・国学)を究めるためです、と答えるでしょう」という意味で、学問に対する士清の真摯な姿勢がうかがえる。塚建立の翌年、安永5(1776)年に士清は67歳で亡くなり、福蔵寺に葬られた。

(「広報津」平成20年12月1日号)

